

『トリガーポイントを用いた疼痛緩和につ  
いて』

県南 鈴木 健一

今回発表した内容からトリガーポイントは  
直接的筋肉の外傷、悪い姿勢、反復性の筋緊  
張などで生じ、トリガーポイントからの関連  
痛は、痛みなどは神経の放散痛と間違えられ  
やすく、痺れなどは神経の圧迫と間違えら  
れたりすることもある。

たとえ痛みが改善しても体の使い方をうまく  
指導できなければまた再発が見られるる為、職  
業や癖、スポーツ、趣味など情報収集をしつ  
かり把握することで適切な体の使い方を指導  
することが必要である。

また治療を行うことで痛みは取れるが、痺れ  
は取り切れないのでも事実であり、そして単純  
に骨や関節の構造異常による痛みの場合もあ  
る。勘違いしないでほしいのは、トリガーポ  
イントにに対しての治療だけで改善すると思い  
込まないで、あくまでもオプションの1つと

# 理 解 し 、 ト リ ガ 一 ポ イ ン ト に 対 す る 筋 膜 治 療

も 試 す 價 値 が あ る と い う こ と を ご 理 解 い た だ

け る と 嬉 し く 思 う 。